

議 長 休憩を解いて再開します。 (15時20分)

引き続き一般質問を行います。受付番号第6号、武尾哲治君の一般質問を許します。登壇願います。

2 番 武 尾 それでは、議長のお許しを得まして、一般質問をさせていただきます。受付番号第6号、質問議員、第2番、武尾哲治、件名、第7次総合計画（令和9年度から16年度までの8年間）の策定について。

要旨。（1）第6次総合計画の各種事業の進捗状況を踏まえた今後の事業展開について。

（2）開かれた町政を目指す上で、計画策定までの間にタウンミーティングなど町民の意見を聴き、反映する機会をどのように設ける予定か。

（3）8年の間に最も重要な駅周辺エリアはどのような状況になっているとお考えか。以上です。

町 長 それでは、武尾議員の御質問に順次お答えをいたします。

まず、8年に一度、フルモデルチェンジを行い、4年に一度、見直し及び改定を行っております、松田町の総合計画につきましては、町や国、県などの行政機関をもとより、町民、個人やグループ、団体、企業等により、町内において展開されている諸活動のうち、町が直接、または間接的に促進、支援、期待するものを網羅し、取りまとめ、まちの将来像の実現に向けた施策及びその進め方を示すものでございます。

令和9年度を初年度とする、新しい（仮称）第7次総合計画の策定に向けては、現在、第6次総合計画における取組の結果を施策動向調査により検証するため、目標に対し、どれだけの成果や効果があったかなど、必要性、効率性、有効性といった観点から、数値目標の客観的な指標を用いて点検・評価を行っております。

今後につきましては、先ほど述べましたとおり、検証結果を基に総合計画審議会にて審議をいただき、（仮称）第7次総合計画の策定を進めてまいります。予定でございますが、第6次総合計画期間は令和8年度末までとなりますので、残り1年9か月ほどにつきましては、将来像であります「いのち育み未来へツナ

グ進化つづける故郷」を目指してまいります。

今後も、多くの若い世代のIターン、Uターンなどにより人口が増え、その結果、地元の高齢者との交流が増えることにて、子供から高齢者までが安心して暮らせるまちを目指すという考え方は、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念とも合致し、持続可能なまちづくりに不可欠な視点であると考えております。

チルドレンファーストの理念に基づいた施策を展開し、若い世代が安心して子育てできること、高齢者が子供や孫たちと一緒に、または近くに住むことで安心して暮らせること、さらには子供たちが成長しても松田町に住み続けたい、あるいは進学や就職などで一旦、町外に出たとしても、故郷、松田町に戻って子育てをしたいと思えることが重要であると考え、オール松田にて、各種事業を強力に推進してまいりたいと考えております。

次に、2つ目の御質問にお答えをいたします。

次期総合計画の策定につきましては、令和9年度から8年間にわたる将来ビジョンの計画の策定を行うため、令和7年度と8年度の2か年間と申しつつ、実質1年余りしかない非常に限られたタイムスケジュールの中にて策定していく予定としているため、それぞれの過程において、町民の皆様方からの声を直接伺う機会を早い段階から多く設けながら、策定作業を進めていく予定としております。

社会情勢の変化などによる物価高騰対策など、喫緊の課題や少子高齢化による人口減少の流れの抑制、また、全ての町民が幸せな人生を送れるように、持続可能な環境と暮らしにつなげる方針や、各種施策などの策定を進めるため、令和7年度は、主に町民や各種団体の皆様方からの御意見をお伺いするための大切な期間として、本年6月22日の城山自治会を皮切りに、町内15か所でのタウンミーティングを開催し、その後、タウンミーティングにていただいた意見などを基に、10月頃、町民アンケートを実施することも予定しており、多様な視点から、現行計画の評価・検証を行うとともに、松田町の現状と地域課題の把握を行ってまいります。

また、令和8年度は、これらの調査結果を詳細に分析し、松田町の目指すべき将来像と、それを実現するための具体的な事業計画の検討を進めてまいる期間となります。この検討過程においては、学識経験者や町民代表の方々に構成される総合計画審議会において、慎重な審議を重ね、令和8年9月頃までに計画素案がまとまり次第、広く町民の皆様方からの御意見を伺うために、パブリックコメントを実施する予定であります。

その後、町民の代表であります議会の皆様方にも、議会基本条例に基づき、総合計画基本構想、基本計画案について、令和8年12月議会にて上程を予定しております。

最後に、総合計画の策定期間といたしましては、8年間に一度、8年先までの町の未来を創造し、実行するために必要となる非常に重要な計画となりますので、少しでも早くから多くの町民の皆様方の声を伺い、皆様方からの希望や要望の実現に向け、しっかりと予算を確保し、町財政の健全化を図るとともに、町民サービスの強化による町民の幸福度の向上を計画的に促進する総合計画を策定してまいりたいと考えております。

次に、3つ目の御質問にお答えをいたします。

第7次総合計画、仮称でございますが、開始の令和9年度は、推進中の新松田駅北口地区市街地再開発事業において権利変換計画の認可を、令和10年度には工事に着手、令和12年1月には、まちびらきを予定しておりますので、御質問の8年間のうちの事業完了後の効果が発現する5年間を含むこととなります。

この再開発事業による総合的、一体的な駅周辺のまちづくりでは、安全で快適な駅前広場及び周辺道路の整備、にぎわいと利便性を向上するスーパーマーケットなどの商業施設の設置、町民サービスを向上させるための公益施設の設置、主に子育て世代をターゲットにした約100世帯の人口増加が実現し、足柄上地区の玄関口としてふさわしい交通の結節点及び商業交流機能が充実したエリアになっていると考えております。

古くから交通の要衝としてにぎわってきた松田町の顔でもある新松田駅周辺

地域は、100年ぶりに大きく生まれ変わることで、町のイメージが刷新され、新たな魅力を備えた町のブランド力・持続可能性は向上し、力強く足柄上地域を牽引する役割を担っていくことを期待しております。

また、平成31年3月に策定いたしました新松田駅周辺整備基本構想・基本計画では、同駅南口から南側の地区やJR松田駅北口周辺を含むエリアも構想対象の範囲としておりますので、新松田駅北口地区市街地再開発事業を起点として、本町の潜在力を発揮するためには、鉄道を横断する南北自由通路の整備や、町道3号線（ロマンス通り）、町道5号線（新松田駅南口）の拡幅など周辺道路網の充実も進んでいることと想像しています。

これらの事業は、町民の皆様方、関係事業者の方々の御理解と御協力が必要不可欠となりますので、機運を逃さず、さらに成長を続ける8年間であることを期待しております。以上でございます。

2 番 武 尾 御答弁ありがとうございました。それでは、再質問に移りたいと思います。

まずは、要旨（1）の進捗状況についての中で、第6次総合計画における施策動向調査を行う調査の手法とか、調査の対象者について御説明をいただければと思います。

参事兼政策推進課長 それでは、点検・評価の対象等についてでございます。

まず、現在の第6次総合計画の点検・評価につきましては、策定時に8年後のビジョンを明確にして、いわゆるアクションプログラムという形で掲げている施策にしっかりと取り組んだ上で、その結果について点検・検証し、計画期間の8年間での基本構想・基本計画に掲げる目標、方針が達成されるように絶えずですね、修正改善を行うこととしております。

そのためですね、進行管理というのがございまして、PDCAサイクルを導入し、毎年度評価・検証を行い、必要に応じて4年ごとに計画に反映、見直しを行うこととしてございます。

その評価・検証のチェックにおきましては、年間3から4回程度でございますが、町の担当部局による内部評価、これは302の事務事業に対し、進捗度、これは5段階になっております。それとですね、方向性、どの方向に行ってい

るのかという9段階の評価を実施しております。

また、計画策定の当初に定めている目標指標というのがございます。これに対して達成状況はどうであったかということで、それぞれの今、町のほうでは施策大綱を6つ掲げてございます。これの実績値や達成率を評価しているところでございます。

これを基に、より効果的な実現を図るため、外部評価というものをやってございます。施策ごとの評価も併せてですね、これが総合計画審議会の委員の皆様様に審議をいただいて進めているということでございます。

このような評価を行いまして、新しい総合計画の策定に向けて取り組んでいきたいというふうに考えてございます。以上です。

2 番 武 尾 この第6次総合計画の施策の動向調査こそが次期の総合計画の重要な礎となるものだと考えます。

今お聞きした内容のところ、役場内の職員さんの評価、それに加えて外部の調査、この二段階で行っているということなんですけれども。

先ほど申しましたとおり、次期のために重要な礎となるというところで、この調査方法なんですけども、もう少し客観的に点検・評価が行えるような調査方法の新たな取組とか、考えというのはありますでしょうか。お聞きします。

参事兼政策推進課長 より客観的な点検・評価ということでございます。現在は、大きな新たな進展というものは、ちょっとまだ検討中ではございますが、今後、行うタウンミーティングがでございます。

この中で、地域座談会を今までやってたんですけども、資料の提供で例えば令和6年度の事業展開はどのようになっているのかということですね、資料を作成し、また時期については、このように考えているというような資料を基に、町民の皆様をはじめ各種団体に提示をし、それをもって町のほうの事業についての点検をしてもらう、また、評価をしてもらうと、それを意見として受け入れるということで、進めていきたいというふうに考えてるところでございます。以上です。

2 番 武 尾 新たな取組、タウンミーティング等の取組等ということで、期待をしております。

ます。

それでは、次にですね、同じく要旨（１）の中のチルドレンファーストの理念というのが、若年層を大事にしていくことで、世代間の好循環を生み出して、中高年、シニア層までが幸せに暮らせていくような社会をつくっていく、古きよき松田を感じるような施策であると私は勝手に思っております。

しかしながら、このチルドレンファーストという子供主義というところだけが特出してしまっていて、まだ好循環を生んでいくという理念が町民に浸透、理解されていない感じがいたします。これをより周知するためには、何かお考えはありますか。

町 長 まず、周知については事務的に答えられる。私が答えてもいいですけど。

まず、チルドレンファーストの考え方はですね、やっぱり長くやっていると、もともと私がじいちゃんばあちゃん子なんですよ。

この松田町でこうやっている間に、いろんな方々にお世話になることもあり、そこで、今、自然災害が多くて、福祉とかといろいろ話をすると独居老人がどうか、その方々が災害のときにタクシーをととか、というようなことがあったりとかするので、やっぱりその方々をお守りするということも、まず第一で考えて、ずっと積み重ねてきたところで、その方々の支えにおいて誰よといったときに、一番いいのは、身近な自分の子供であったりとか孫であったり、もちろん親戚関係が一緒に住むのが一番いいと思う。

なかなかでも二世帯で住むのに難しかったりするんで、近くに住んでもらえればそれでもいい。それでも、やっぱりどうしても都市部に行って、なかなか近くにいないとなると、近隣の若い人たちがいたほうがいいわけですよ。

ちょっと話がずれるか分かりませんが、消防団１個を見たって、非常に充足率が少なく、何とか若い人たちに入ってもらおうとかかいうふうな話とかやっているぐらいで、やはり高齢者が災害だとか普通の生活の中で困っているようなことを変えるためにも、そうであれば、やはり若い世代の方々に松田を選んで移り住んできてもらいたい。ましてや、今いる子供たちがやっぱり自分が過ごしていたときは、松田はよかったよね、東京に出ても。

じゃあ、戻ろうかといってもらったので、チルドレンファーストというふうなことをお話をさせてもらってるんで、やっぱり根っこは高齢者福祉対策なんです、この事業というのは。

その部分が、今おっしゃるように、そういうふうに言っている、何か若い子たち対策で高齢者には、いや、もう全体の予算の高齢者と若い人たちの割合を見てもらっても分かるように、結構、高齢者にお金を投下しているんです、松田町も。

ですので、何か言葉がそういうふうに歩いているんだろうなというふうなのと危惧してるところもあるので、ぜひですね、タウンミーティングのときに第6次総合計画の後期アクションプランの中から、そういうふうなもの、理念を入れてやってきているところについての反省点だとか、そういったことも含めながら地域の方々に、改めて御理解をいただきながら、今の事業の様々なところを展開していくというふうな格好で、これから15か所をしっかりと回ってきたいというふうに考えてます。以上です。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。そうですね、チルドレンファーストの理念ということで、もう再三、私たちは、いろいろ理解して業務を実行しているところですが、なかなか発信の仕方ですね。だから、どういうふうな形でやればいいのかというところがございますので、一概にホームページに載せるとか、LINEとかありますけども、その前に、やっぱり先ほど町長が言いましたとおり、タウンミーティングなどでしっかりと皆さんに周知をし、それを例えばホームページもそうなんですけど、チルドレンファースト、いわゆる子供中心社会と今、国も言ってますけども、それが一体どうつながるのかというのをしっかりと見えるような形、予算もはじめ、そういう形の発信力を、また、いろんな口コミをはじめ、いろんな形で考えていきたいというふうに思います。以上です。

2 番 武 尾 ありがとうございます。

それでは、次に移らせていただきます。

要旨（2）の開かれた町政を目指し、今ちょっと前の話ともかぶりますが、タウンミーティングや町民アンケートを行って民意をくみ上げていくというこ

となんです、この考えておられる内容とか手法について教えてください。

参事兼政策推進課長　　まず、タウンミーティングにおきましてはですね、毎年、地域座談会やら地域懇話会の業務をやっているんですけども、やっぱり若い世代の参加が非常に少ないというところで、自治会長様はじめですね、いろんな要望があります。

私も自治会連絡協議会の中で、こういうのをやりましたときに、もっと若い世代を呼ぶような努力をしろということで、もう6年、7年ぐらい前からずっと言われてきて、いろんな手法を考えているんですけども、なかなか伝わらないというところがございます。

なので、いろんな形の発信の仕方はあるんですけども、やっぱりネットの関係、SNSの関係等々も含めてですね、幅広く若い世代が引くような形の発信の仕方をちょっと考えていきたいというふうに私は今、思っております。

また、意見交換かアンケートもあるんですけども、アンケートなんかもですね、やっぱり手法がいろいろあって、ネットによるアンケート調査等々も検討していきたいなというふうに思います。

通常のアンケートはやるんですけども、やっぱりそれが行ったところで興味を引くような、分かりやすいアンケートにしていかなくちゃいけないので、その入り口をどうするかというところがありますので、その辺はいろいろ若い人の声を聞きながらですね、手法も検討していきたいというふうに考えてございます。

そして、例えば個別に各種団体との懇話会みたいのをやる場合につきましてもですね、オンライン会議とか、そういう形でやるような形も視野に入れながら意見を聞いていきたいなというふうに考えているところでございます。以上です。

2 番 武 尾　　ありがとうございます。

そうですね、現在においてネットの活用が少し足りてないというのは、皆さん、職員の方も御存じだと思っております。ぜひ、より幅広い町民の意見を聞くためのツールとして広げていっていただきたいというふうに考えております。

続きまして、要旨（3）のところで、答弁の中で、ビルができて人口増、約300人と、あと活性化のためのスーパーマーケットについて触れられていたんですけれども、担当として現状について説明等があれば、この内容についてお聞かせいただきたいと思います。

まちづくり課長 お答えをさせていただきます。人口増というのは、先ほどおっしゃっていた、いわゆるマンションで、今現在100世帯超を考えている中で、おおむね300人ということを見込んでおります。

また、活性化という意味合いにおきましては、これは町民ニーズも非常に高いスーパーマーケット、これの誘致というのはもう必須であろうと、こういうことで進めております。

今ちょうど触れていただきましたので、人口の関係だけちょっと簡単に申し上げますと、駅周辺というのが、やはり人口の減少というのがよく座談会がちょうど今日、今、出ていましたけども、自治会ごとの人口の比較ですね。平成2年と今現在をたしか比較していると思います。

町内全域が恐らく80%を少し割るような人口の減少率、三十何年間で、寄地区というのはやはりちょっと厳しくて、70%、73%、それぐらいです。松田地区はおおむね80%で、この駅周辺の人口に着目してみますと、特にこの新松田自治会等々ですね、この所在する周りを見ますと50%ちょっとです、比較しますと。

この空洞化というのは非常に顕著で、非常に危機的な部分であるというふうに考えています。

あと、にぎわいという点に関しては、このスーパーマーケットがやはり過去は松田の駅前の方にもございました。今現在、新松田駅のこの再開発のエリアでテナントとしてあられますのが、おおむね20店舗、飲食店、いろいろなものを含めて20店舗でございます。

やはり、駅前でどうしても今お店も撤退されたり、いろいろな関係で減っているというのが非常に厳しいという状況でございますので、ぜひこの事業を進めていきたいというふうに考えております。

2 番 武 尾 ありがとうございます。

引き続きなんですけども、この要旨（3）の中で、駅周辺の土地利用、開発としてはですね、お隣の開成町が、かなり成功しているのではないかと。町のブランド力も向上しているように感じております。

この松田町において、成功するための鍵というのは何だというふうに考えられていますでしょうか。

まちづくり課長 答えをさせていただきます。

今回の駅周辺の再開発、開発全体ということはですね、何回も出ていますけど、基本構想・基本計画にのっとって検討してきております。

今、お話に出た開成町ということでございますが、これは本当に御案内のとおり、駅前の状況というのがですね、土地のあるなしというのが非常に大きく違うと思います。

松田町は、やはり古くからの町並みと、中心都市として早くに栄えた。開成町は、今現在、まさにこの上昇傾向にありますけど、これからというところもございませう。

やっぱり、その背景が違う中で、開成町は土地があるから区画整理事業もできる。ただ、松田町で同じことをしようとしたときには、これはかなわないと思います。

やはり、限られたインフラ、限られた土地の中で、どうやっていこうかというときには、土地利用の高度化、これが再開発事業の肝だというふうに考えておりますので、今、再開発事業で進めさせていただいているのが、担当としては最善と考えております。以上です。

2 番 武 尾 ありがとうございます。

この次のですね、第7次総合計画というのが、松田町の正念場であると我が町始まって以来の大型公共事業であります。かつてですね、JRの裏のビル開発とか、新松田の南口の開発の停滞状態、これを見て町民の中では、二度あることは三度あるよというような言い方をする方もいらっしゃいます。

ぜひですね、三度目の正直ということで、町長に最後にお聞きしたいと思

ます。この町の将来を見据えたまちづくりのイメージについて、再度、お聞きします。

町 長 ありがとうございます。ちょっと古い話になりますけども、12年前に討論会があって、そのときに松田町に大切なものは何ですかと言われたときに、僕は駅と桜と言っちゃったんですね。当時の町長は歴史と文化だ。物すごくいい言葉だなとすごく勉強になった記憶があります。

さらに、生きてきた過程が違うんであれですけど、やっぱり駅は必要だなと、商売人的な感じでいけばですね。でも、やっぱり歴史と文化が、そこを分かった上でそこをしっかりとやっていかなきゃいけないんだなというふうに感じてます。

やはり、松田町が栄えてきた歴史、100年前から、本当にその辺のことを考えていますと、思いをはせたときにはですね、どこかで決断しなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っています。

ですので、そのためにはやっぱり当然町民の方々の御理解と協力を得て、進めていかなきゃいけないと思うので、ハード整備だけではなくて、そのようなことが重要だなというふうに考えてますので、これが本当の成功の鍵だろうなと。

なので、限られた時間でありましてけども、やっぱりしっかりと説明をし尽くして、物事を進めていきたいと思っています。

松田町の将来はですね、これからハード整備だけ話をすると、南口にやっぱりエレベーターの設置だとか、まだまだやらなきゃいけないこともありますし、北口だけではなくてですね。やはり鉄道で分断されてるところありますから、小田急の南口からJRの北口まで行けるような、南北自由通路とかハード整備もあります。

本当にそういったことをやりつつですね、とにかく町民の方々が松田町に住んでよかったねと、この松田町にやっぱり戻ってきたいよね、何か松田町は変わったなと言ってくれるような町にすることによって、若い人たちから選んでもらえる町になっていただきたいと思いますしね。

大阪万博もやっていますけども、空飛ぶ車なんか飛んでるような時代になってくれば、またいいでしょうけどもね、そのような夢をはせながら、今後に限られた時間ですけれども、しっかりやっていきたいというふうに考えてます。以上です。

2 番 武 尾 終わります。

議 長 以上で受付番号第6号、武尾哲治君の一般質問を終わりにします。